

「長周期地震動に関する情報のあり方について (長周期地震動に関する情報検討会平成 28 年度報告書)」(概要)

1. 長周期地震動に関する予測情報について

(1) 長周期地震動に関する予測情報のあり方

警戒・注意を呼びかける予測情報

- ・近年の高層ビルや免震建物の増加による長周期地震動の影響を受ける人口の増加
- ・長周期地震動では高層ビル等で家具類の転倒・移動等が発生し人命に係る重大な災害を引き起こすおそれ
- ・長周期地震動階級の予測技術の実用化

広く国民に警戒・注意を呼びかける予測情報は気象庁が担うべき

多様なニーズに対応する予測情報

- ・高層ビル等在館者への情報提供、高所作業の安全確保、エレベーター等の機器制御など多様なニーズがある
- ・個々の高層ビル等の揺れ方は地盤の状況、建物の構造、発生した地震動の周期などにより異なる

個々の高層ビル等の多様なニーズに対応する予測情報は民間の役割が重要

(2) 長周期地震動に関する予測情報の具体的な提供方法等

警戒・注意を呼びかける予測情報

- ・安全な場所で揺れに備えるという行動は長周期地震動でも緊急地震速報と同じ
- ・発表基準は、予測精度を加味し長周期地震動階級 3 以上の場合とすべき

現行の緊急地震速報(警報)を発表する基準に長周期地震動階級の予測値を追加

多様なニーズに対応する予測情報

- ・予報事業者等は、気象庁から提供する予報資料を基に予測情報を作成
- ・予測技術、利活用策、利活用にあたっての留意事項などの検討・検証が必要

「多様なニーズに対応する予測情報検討ワーキンググループ」を設置し検討

2. 長周期地震動に関する観測情報について

(1) 長周期地震動に関する観測情報のこれまでの取組

- ・平成 25 年から気象庁ホームページで長周期地震動の観測結果(長周期地震動階級の分布図等)を提供
- ・長周期地震動階級の算出方法の改善、利用者からの要望を踏まえ提供内容や表示方法の改善など随時実施
- ・平成 25 年度に長周期地震動による大きな揺れの見落としを避ける観点から首都圏に観測点を新たに設置

(2) 長周期地震動の観測結果の提供のあり方

- ・長周期地震動の観測結果は高層階での被害の可能性の把握など様々な防災対応への活用が期待される
- ・ホームページの場合は、観測結果を必要とするものが自らアクセスして取得しなければならない

観測結果のオンライン配信による提供が必要。防災対応のための情報のあり方は今後も検討

3. 今後に向けて

- ・情報を活用するための普及・啓発
- ・多様なニーズに対応する予測情報の実用化に向けた検討
- ・長周期地震動階級等の予測精度向上のための検討
- ・観測情報の提供のあり方の検討
- ・情報提供に用いる強震観測網の充実・強化について